

第2回 山科区基本計画策定委員会 摘録

- 1 日 時 平成21年10月26日(月) 午前9時30分～午前11時47分
- 2 場 所 山科区役所 2階 大会議室
- 3 出席者 幸田副座長, 板倉委員, 梅本委員, 太田委員, 岡久委員, 奥田委員, 川嶋委員, 河村委員, 小山委員(代理出席), 澤田委員, 朱委員, 竹之内委員, 田島委員, 出竿委員, 羽立委員, 松本委員, 森委員, 山口幸秀委員
- 4 内 容
 - 議事①: 統計に見る山科区の概況について
 - 議事②: 住民からの意見について
 - 議事③: 山科区フロンティア計画の総括について
 - 議事④: 新たな「山科区基本計画」の策定について
 - 議事⑤: 基本施策等に係る意見交換
- 5 説明及び質疑(議事①, ②, ③)
 - (1) 説明
 - 山科区の概況, 住民意見の総括, 山科区フロンティア計画の総括等について, 事務局から説明した。
 - (2) 質疑
 - 基本施策については総括があったが, 重点施策についての評価は, どうなっているか。
(回答) 基本施策と重点施策がクロスして設計されている計画のため, 進行管理については, 基本施策の体系において行っている。
- 6 各委員からの意見要旨
 - (1) 新たな「山科区基本計画」の策定について(議事④)
 - 現計画の総括等をみると, 住民には, 地域への思いと活力があるのに, 「いい資源を持っている」が「活かしていない」と思う。
 - 住民が心を一つにできる, 目玉となるプロジェクトを設定したらどうか。「誰もが知っている山科の何か」をつくることが重要である。
 - 次のビジョンでは「地域個性」をどう活かすかということも重要だ。
 - 現計画の柱立てが, すべて「まちづくり」となっている。「まち」があったら「ひと」があるものだと思う。
 - こんな大きな会合をしているということを区民は知らない。知らせるべき。
 - 新しく山科区に入ってきた若手メンバーへのヒアリングなどをお願いしたい。
 - (2) 基本施策等について(議事⑤)
 - ア 環境について
 - 今年第2回目の河川清掃を4河川で実施したが, 相変わらず非常にごみは多い。
 - 地球環境問題について, 区民への啓発が課題であると考えている。生活の中の実践が重要であり, できることから取り組むべきである。

イ まちの魅力・観光について

- 山科区にも観光案内所を早くつくりたい。京都市の観光が進む中、山科区にももっと観光に来てもらいたい。
- 山科にはシンボルとなるキャラクターがない。知名度アップのため、ゆるキャラを考えては。道の駅など地元の産品を販売できるような所があってもいい。
- 京都駅を降りて山科区へくるアクセスが非常に悪い。バスターミナルでは、せめて30分に1回は山科行きを走らせてほしい。
- 史跡など区のいろんな魅力を、他の地域の人には知らないことが多い。活発化し始めている各組織の活動を一本化して発信していくことが大事だ。

ウ 交通・都市基盤について

- 地下鉄整備後、山科から市バスがなくなり、非常に不便になった。地下鉄の補完交通となるバス体系を整備することを、京阪バスに要望すべきである。小型バスなどの交通アクセスを考える必要もある。
- 山科から市役所などに出掛けて、帰りに山科駅で買物をしたいと思っても、途中下車になって交通費がかさむのであきらめる。山科駅だけでも途中下車できるようにしてほしい。
- 戦前からの都市計画道路の計画により、2、3階建が建てられないなどの支障が出てきた。
- 駅前の再開発は当初計画を縮小して実施している。鉄道事業者と地元が協力した形で再計画を行うべきである。
- 山科区は40年くらい前から住宅化が進み、結果的に道路整備ができなくなって、いろんな問題点が出てきた。今はこれを再生する時期だと思う。

エ 福祉・子育て支援について

- 子どものモラル、礼儀が悪い。教育がなっていない。また、環境に対して意識の高い子どもを育て、そうした子どもが意識の高い大人になる、そうした取組も大切かと思う。
- 山科区について、子どもがわかるような資料がほとんどない。子どもたちに何を伝えるかということ、私たちはもっと考えなくてはいけない。
- 子ども自身が山科区民であることを意識して、地域とつながっていける場がない。子どもの頃に地域とつながることができる体験がたくさんできて、ふるさとを「我が町」と自慢する子どもに育ててほしい。また、子どもが自分の暮らす地域に誇りを持てるようにするためには、学校と地域との連携が必要である。
- 政権が変わって障害者自立支援法がどうなるのかが親御さんの中で話題になっている。障害者の社会参加が進むようになってほしい。

オ 地域のつながりについて

- マンションなど、自治会の加入率が低下している。マンションの中の高齢化も進んでおり、自治会に加入をしてほしい。また、自治会の加入については、子どもが小学校にあがる頃が声かけのチャンスである。区民運動会などに参加したいという動機が自治会加入のきっかけとなる。
- 少子・高齢化、高齢者のみ世帯の増加などによって、お年寄りの知恵が子どもに活かされていない。